

試行についての主な意見・感想等

○評価シートについて

* 施策評価シートについて

- ・「分析・評価」欄の「役割」「効率性」「有効性」「成果」の内部評価は、どの施策ともほぼすべてが「おおむね○○」（四択のうち上から2番目の評価）になることが推測されるため、評価区分を設ける必要があるか否かについて、検討する余地がある。
- ・「役割」「効率性」「有効性」「目的」についての評価が、ほぼすべて「おおむね○○」となっており、また、それぞれの内部評価の理由の記載がないため、外部評価委員としてはわかりにくい気がした。
- ・「今後の取組の方向性」欄の「課題」「方向性」について、試行での内部評価は、基本的に計画事業評価シートに記載されている内容を列挙しているため、施策単位での独自の評価という性格が希薄となる印象を受けた。この点をどう考えるのかの検証が必要ではないか。
- ・記載内容は、総合的な評価を記載したうえで、個別項目については、計画事業や経常事業のうち、特に指摘すべきと判断された事項を具体的に記載することが想定される。
- ・「目標設定」欄については、「評価」欄の「目標」とは別の用語、表現を使い、できる限り、施策全体の成果を評価し得る数値目標を設定する必要がある。
- ・はじめに総合評価としての結論がある点など、シート全体の項目の配列がわかりやすく、見やすい。

○ヒアリングについて

- ・部会の開催回数や各回の内容・時間配分について、どのように実施すれば、効果的、効率的であるかを検討する必要がある。
- ・施策単位にすると、施策を構成している各事業の複数の所管課がヒアリングに同席するので、ヒアリングの場でない点と確認できない点や気づきが得られるのでよい。
- ・施策の全体像や構成、各事業間の関係について理解し評価を検討するうえで、評価シート以外の資料があるとわかりやすい。
(例 当該施策にかかわる行政計画の概念図など)

○評価のとりまとめについて

* 外部評価チェックシート

- ・「役割」「効率性」「有効性」「成果」「取組の方向性」について、施策独自の評価の観点が見えにくい中では、外部評価は事業単位で行わざるを得ないため、「チェックシート」の記入欄のスペースが事業数に比して小さい。
- ・計画事業と経常事業をあわせて、かなりの事業数があるものを、一枚の外部評価チェックシートにまとめる場合、どこまで細かく書いていいか判断が難しい。

- ・これまでのように、計画事業及び経常事業について、1事業ずつチェックシートに記入した上で、それをまとめる形として、施策評価のチェックシートをまとめたほうがよい。
ただし、外部評価委員の負担が増すことが懸念される。
- ・施策評価に入る前に、個々の事業の審査または個々の計画事業の評価したほうがよい。
- ・「役割」「効率性」「有効性」「成果」「取組の方向性」での評価内容が計画事業や経常事業の事業単位の評価を列举的に挙げる内容のものにならざるを得ないのであれば、「計画事業及び経常事業の取組状況に対する意見」欄は、特に設ける必要性は低い。
- ・「個別施策」をまとめて評価することに、大いに違和感を覚える。
個々の「計画事業」をきめ細かく評価する上では、「基本施策」「個別施策」の理解が必要である。
「個別施策」を評価することではないのではと思う。
- ・はじめに結論としての総合評価があり、効率的に審議できる。

○全体に関することについて

- ・施策単位での評価が、結局は事業単位の評価をまとめるという形になるのであれば、運用の仕方や、補足的方法の工夫などにより対応はできる。
- ・外部評価における経常事業評価の位置付け、経常事業に対する視点の置き方を、より明確にしておく必要がある。
- ・経常事業も外部評価の対象にする以上、経常事業の評価に相当な情報が必要になり、所管課の負担が増してしまう。
- ・「施策」を構成する計画事業を中心に外部評価するということが現実的ではないか。この場合は、計画事業を中心に評価することの理由を明確にしておく必要があると思われる。
- ・経常事業についての詳しい説明がなく、今後、外部評価の対象とするか否かについて、再度、検討が必要である。
- ・施策評価シートの記載内容がやや抽象的でも、個々の計画事業評価シート、経常事業取組状況シートとの関連が分かれば、評価が可能である。あわせて、それらの関連性が分かる資料を提供してもらうことでより分かりやすくなる。
- ・評価シート（施策、計画事業、経常事業）の書き方の工夫や表現方法の統一感が必要である。
- ・施策単位での評価は、横のつながりも分かりやすく、全体像が見やすくなった。
- ・施策単位での評価（新たな内部評価シート）は、区の施策体系及び取組みの全体像が分かりやすく、良かった。
- ・ヒアリングでは、事業を所管する複数の課が同席し、委員の質問にそれぞれ丁寧な対応をされたことも評価できる。
- ・個別施策評価は以下の手順で行うことで、適切に評価することが可能であると感じた。
 - ①当該施策を構成する計画事業、経常事業について、個々にヒアリングを行い、各委員が理解を深める。
 - ②各委員が、各々の観点で個別施策、計画事業、経常事業についての疑問点、改善点など、指摘事項を整理する。
 - ③それらについて、部会で議論、共有することにより、部会としての見解を整理する。

④以上のうえで、総合評価を行う。

- ・計画事業評価だけだと、全体の流れが見えず、その事業がどこに位置しているのか、分かりにくかったが、施策評価はその問題を解決する手段となる。
- ・委員改選期でもあり、初めての委員に対して、短時間で評価手法を理解してもらうことが出来るかが課題である。
- ・外部評価委員として、区民目線を持って、個別施策や個別事業を理解しているか。ある程度の専門性を持ち、一人ひとりが深みのあるバックグラウンドをどのように持っているかが大事である。
- ・個別施策全体で評価を実施することは困難である。
- ・今後、試行を積み重ねていく事が重要と思える。
- ・施策評価になると1年間の動きだけで評価してよいのか等の問題点も出てくる。